

序

昭和52年4月県教育長に就任以来、私は、教育・文化に対する県民の要請にこたえるため、その実情を正しく認識することに努めてまいりました。

その結果、本県教育・文化の発展を期するためには、解決しなければならない多くの問題があることを身をもって認識したのであります。

これらは、いずれも臨時的措置や短期間に解決される問題ではなく、長期的、総合的な見通しのもとに、計画的な教育行政の推進によって、はじめて解決されるものと痛感いたしました。

また、県では、福島県総合開発審議会が知事の諮問を受けて、福島県長期総合計画の策定を開始し、教育部門もその一翼を担うこととなりました。

そして、昭和52年12月福島県総合開発審議会の答申を経て、昭和60年度を目標年度とする福島県長期総合計画ができあがったのであります。

しかし、福島県長期総合計画の教育部門については、教育行政の特質から、これを補完する計画の必要が要請され、これに応ずるとともに、福島県長期総合計画の趣旨を教育行政施策に具体化するため、県民意識の変化が教育・文化に要請する課題を展望し、これに対応する第2次福島県長期総合教育計画を策定することにいたしました。

県教育庁内部に設置された第2次福島県長期総合教育計画策定専門委員会を中心に各課室あげてこれにあたり、また第2次福島県長期総合教育計画策定に関する会議において各委員の御意見を聴取し、約1年間の策定作業を終えて、第2次福島県長期総合教育計画ができあがり、計画書を公表する運びとなったわけであります。

私は、この計画を今後の教育行政運営の基本として、その実施にあたり、本県教育・文化の発展を期する所存であります。

しかし、この計画の実施にあたっては、多くの困難が予想される所であり、単に県の力のみでは、目標を達成し得るものではありません。国、県、市町村が一体となって、その推進にあたってこそ、はじめて所期の目的が達せられるものと信じ、あらためて関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

また、今次計画の策定にあたりまして、終始惜しめない御指導を賜った東京工業大学新井郁男助教授、国立教育研究所第二研究部第一研究室菊池城司室長をはじめ、策定に関する会議の委員各位、県並びに市町村関係各位に厚く御礼申し上げます。

昭和53年3月

福島県教育委員会教育長 邊 見 榮之助